

2017 January

Vol.53

広島西医療センターNEWS

発行所:独立行政法人 国立病院機構 広島西医療センター

〒739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号 TEL.0827-57-7151(代) <http://www.hiro-nishi-nh.jp/>



タイトル「サービスショット」 撮影者：感染管理認定看護師 吉松崇之
コメント「あけましておめでとうございます。」

CONTENTS

■ 2017年 年頭のご挨拶 …………… 2	■ 秋行事～広島西医療センターにモンスタータウン出現！～…19
■ 地域のリーダー・アラカルト …………… 3	■ ゆるキャラグランプリ2016 応援ありがとうございました…19
■ 第70回 国立病院総合医学会 IN沖縄……………4	■ NHK番組 取材、撮影 …………… 20
■ 小麦粉摂取後に生じたアナフィラキシーショック、犯人は予想外の…〇〇!…13	■ 平成28年度秋季消防訓練の実施と振り返りについて…21
■ 医療安全取り組み発表会の報告……………14	■ 栄養士のつぶやき 18 …………… 21
■ 第7回休日前立腺がん検診……………15	■ 患者図書室から……………22
■ 地域医療連携病医院のご紹介① 古吉眼科医院…16	■ 少し足をNova Savor……………23
■ 地域医療連携病医院のご紹介② 本町医院 … 17	■ 地域医療連携室実績報告……………23
■ クリスマスコンサート……………18	■ 編集後記……………23
■ ひろしま国際マラソンにメディカルランナーとして参加しました…18	■ 外来診療担当医表……………24

病院理念「患者さんと共に」

基本方針

1. 患者さんの意思の尊重と信頼関係の確立
2. 地域に密着した良質で安全な医療の提供
3. 予防医療への貢献
4. 医療の質の向上のための研鑽
5. 経営基盤の確立

「患者の権利」宣言

1. 個人の尊厳の権利
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 自分の受けている医療について知る権利
4. 自分の意見を表明し、自己決定する権利
5. 個人のプライバシーが守られる権利



公認キャラクター
「にっしーくん」



広島西医療センター 2017年 年頭のご挨拶

院長 奥谷 卓也



平成29年（2017年）あけましておめでとうございます。みなさん、良い年をお迎えになられたことと思います。

昨年はオバマ米国大統領の広島平和記念公園への訪問、25年ぶりの広島東洋カープのリーグ優勝、そして「神ってる」の年末流行語大賞受賞など、何かと広島が注目される1年でした。また、オリンピック・パラリンピックリオ大会での日本人の活躍などを目のあたりにし、平和でスポーツを存分に楽しめるわれわれは如何に幸せであるかを実感した年になったような気がします。

しかし昨年は、4月の熊本地震によって、多くの方が犠牲になり、今もなお不自由な生活に苦しんでおられることも忘れることはできません。当院は国立病院機構及び広島県の災害拠点病院としていち早くDMATと初期医療班を派遣しました。また、10月には災害拠点病院として広島県、医師会などを実施主体とした集団災害医療救護訓練（大規模災害訓練）を当院広島西医療センターで行いました。病院スタッフ、DMAT、消防、警察、陸上自衛隊など300名を超える方が参加し、多くの見学者にも来ていただき、かなり大規模なものになりました。これは当院にとって、一つのマイルストーンとなった行事でした。

当院は平成25年に施設がほぼ全面新築となり、平成27年に、創設（統合後）10周年の節目を迎えました。統合時の全職員数は約430余名でしたが、今では700名弱まで増加し、医師だけを見ても、30名そこそこで非常に苦勞していた統合時に比べ、現在では60名近くになり、初期臨床研修医も昨年度から定員増の1学年6名（2学年で12名）を募集できるまでになりました。看護師についても募集人員を応募者数が上回る状態を毎年維持しており、人が集まる病院として成果が実っているようです。

提供する医療の質については、みなさんのご評価をお聞かせ願いたいところですが、地域医療支援病院、災害拠点病院、救急告示病院、へき地医療拠点病院、難病医療拠点病院、在宅療養後方支援病院などの機関指定を受けており、地域の中核病院として地域社会に必要とされる医療の提供を続けるよう努力してきました。

研究については、平成27年度に臨床研究部が本部承認され、初代臨床研究部長の石田先生が他県大学へ栄転されたのを受け、6月から後任として高蓋先生に着任いただきました。特許申請など今まで当院では耳にしなかったことも現実化し、当院の臨床研究部はますます活性化してきております。

国立病院機構は病院毎に病院評価を行っており、経営の効率性・成長性・健全性などや診療の質・臨床研究・教育・地域貢献など医療に関する項目について点数により毎年評価しております。当院は平成27年度に92点で全国143病院中8番目に高い評価（AA評価）をいただきました。

このような本業以外にも、恒例となった患者・地域住民のみなさん、当院職員参加の広島西医療センター祭りは盛況のうちに9回を数え、今年は記念すべき10周年を迎えます。これに関しては、職員の有志がまた新たな楽しい企画を考え、盛大に催してくれるものと期待しております。みなさんも楽しみにお待ちください。

広島西医療センターが安定した水平飛行、順風満帆な航海を続けることができるよう、そしてこれからも地域医療の強力な担い手として、「患者さんと共に」安全・安心な医療の提供をお約束すると同時に、職員がみんな「元気で幸せに」働き、過ごしていけるよう努めてまいります。

みなさんにとっても今年も良い年になりますよう祈念いたします。



地域のリーダー・アラカルト (第九話) 『リターンライダー その2』

三菱レイヨン株式会社大竹事業所
所長 谷口 芳行



三菱レイヨン株式会社大竹事業所で事業所長をさせて頂いております谷口です。広島西医療センターの皆様には日頃からお世話になっております。特に事業所で発生します緊急の傷病対応におきましては、常に迅速な処置をして頂いており、事業所の生産活動が安心してできるのも皆様のおかげと思っております。



三菱レイヨン株式会社大竹事業所

また、私が化成品工場長時代、工場を取り扱う薬品の被毒時の処置に関し、基準を策定する際には弊事業所の産業医の先生を通して多大なるご協力とご対応頂きました。感謝申し上げます。

今回、広島西医療センター NEWSへの投稿のご依頼に際して、趣味の話など気楽に書いてくださいとの事でしたので、余暇の過ごし方など書かせて頂きたいと思っております。

私は学生の時からバイクに乗っていましたが、子供の世話や家族でのキャンプ、旅行、子供の部活等々、一人でバイクに乗る時間が無くなったため、25年間ほどバイクから遠ざかっていました。7年ほど前に、体力のあるうちに大型車に乗ろう、と思い立ち自動二輪免許の限定解除を取得し、国産の1300ccのバイクを購入、リターンライダーの仲間入りをしました。第二話で前大竹警察署長の棟杉さんが投稿されていたので、今回は「リターンライダー その2」としてバイクライフについて書かせて頂こうと思っております。

現在の愛車はハーレーのFXDLローライダーという車種です。土日になれば、いくつかのお気に入りのコースをその日の気分や天候に応じて走っています。春は新緑の香りを感じ、桜、菜の花などを見ながら、夏は暑さを避けて高原方面を中心に、秋は黄金に色づいた稲穂や彼岸花を見ながら、そして冬は透明度を増した大島や上関の綺麗な海を楽しみながら走っています。また、時々仲間と一緒にツーリングにも出かけます。防府天満宮への初詣でツーリングに始まり、山陰では“須佐男命いか”を食べ、四国愛媛では鯛めしを堪能し、先日は奥出雲で出雲そばを食べたり、と仲間との楽しい思い出がたくさん出来ました。また広島でシンガーソングライターとして活躍されている森本ケンタさん主催の角島ツーリングでは60台以上のバイクが

集まり、追っかけのおばちゃんが250ccのバイクで高速を必死で走っていたり、小柄な女性が大型クルーザータイプのハーレーを颯爽と乗りこなしていたりと、非常に楽しいツーリングでした。これから寒い季節になりますが、最近ではウェア類も発達しており、ヒーター入りのジャケット、手袋を身に付け、路面さえ凍結していなければ極寒の時でも走ることができます。多少寒い想いはしますが、冬のライディングを楽しみたいと思っています。

定年が間近に迫って来ておりますが、定年したらバイクで日本一周してみたいと思っています。「死ぬまでに行きたい!世界の絶景 (日本編)」という写真集がありますが、四季折々の美しい日本の景色を見て走りたいと思っています。

ハーレーはメーカーも言っているように性能を追求しているバイクではなく、また乗る楽しさだけでなく雰囲気や恰好を楽しむバイクでもあります。膨大なカスタム用のパーツが様々なメーカーから販売されており、自分好みのバイクに仕上げる事が出来るのも大きな魅力です(お金が掛かる事が大きな問題ですが…)。私もリアサスペンション、エアクリナー、マフラー、ウインカー等々カスタムしてきました。現在はハンドルの交換を考えている所です。体力がいつまで持つか判りませんが、またお財布がどこまで持つか判りませんが、未永く楽しみたいと思っています。

話は変わりますが、弊社社長より「KAITEKI健康経営」宣言が出され、全社での取り組みがスタートしています。“KAITEKI”を提供し持続的発展に貢献する上で“人”は大切な資源であり“人の健康”“組織の健康”は最も重要な要素であるとの考えの元、「自分の健康」「職場の健康」「家族や地域の健康」を推進する取り組みです。具体的な取り組み例としては“受動喫煙の防止施策(大竹事業所では2020年事業所内全面禁煙に向けて取り組みます)”“KAITEKI体操(転倒労災防止の為の下半身の体力強化やバランス感覚の向上の為の体操で就業時間中に実施)”“安全安心体力テスト(KAITEKI体操の効果の定量的な把握)”を実施中です。家族や地域の健康の為にもまた、定年後の充実したバイクライフの為にも「自分の健康」「職場の健康」をしっかりと取り組んで行こうと思っております。



ハーレーFXDLローライダーにのる筆者

第70回 国立病院総合医学会 IN沖縄

去る11月11日～12日にかけて、「医療構造の変化と国立病院機構に問われる役割～命（ぬち）ぐすい、温かい医療を広げよう～」をテーマに第70回国立病院総合医学会が、沖縄は那覇の地で開催されました。広島西医療センターからも、シンポジウム1名、一般口演6名、ポスター発表24名、座長4名の合わせて35名が参加しましたので、報告致します。



シンポジウム発表者



□職 名：地域医療連携担当師長 □氏 名：安部 亜由美

□演 題：「在宅療養後方支援病院としての取り組み」

□発表の概要・感想：

今回、第70回国立病院総合医学会でシンポジストとして参加させて頂きました。地域包括ケア時代における国立病院の役割、また地域社会に開かれた窓口として連携室が機能していくための各病院の取り組み内容を聞く、大変貴重な場となりました。当院は平成26年に「在宅療養後方支援病院」の施設基準を取得し、在宅医療をバックアップする体制をいち早く整備させてきました。当院が行っている地域医療連携の様々な取り組みも決して他病院と引けを取らない内容であることも確認でき、今後さらに地域の基幹病院として院外との連携が重要であると再確認することができました。沖縄の空気を満喫し足を延ばして“リフレッシュ”といきたかったのですが、シンポジストという大役のプレッシャーで沖縄を感じたのは、熱さのみでした。沖縄を再度訪れる機会があれば、パワースポットで英気を養いたいです。



一般口演発表者



□職 名：総合診療科医師 □氏 名：小池 隆夫

□演 題：「脈拍数と呼吸数を同時測定可能な機器を用いた当院での試み」

□発表の概要・感想：

第70回の国病学会に参加し当院で中村医師と継続的に行っている研究課題についての報告を行いました。フロアーからは在宅での実際の機器の使用方法、入院患者で行って課題となった点への現時点での改善への取り組みなどについて質問をいただきました。今後も引き続き症例を集め検討を重ねていきたいと考えております。



□職 名：内科医師 □氏 名：小倉 孝一

□演 題：「当院におけるPET-CT検査4年分のまとめ」

□発表の概要・感想：

今回、国立病院総合医学会で初めて発表を行いました。題名は「当院におけるPET-CT検査4年分のまとめ」で、当院のPET-CT検査でどのような疾患（癌）が診断されてきているのかをまとめた内容でした。健診センター長の中村浩士先生には事前に詳細な発表内容に至るまでご指導をいただきました。本番はやや緊張しま

したが、自信を持って発表することができました。11月の沖縄は暖かいというか昼間は暑いくらいに感じられました。他病院の方々の発表も見聞きして勉強することができ、充実した一日でした。

□職 名：臨床研修医 □氏 名：田中 悠登

□演 題：「総合診療科から紹介され、直ちに循環器科による専門的加療を必要とした10症例の検討」

□発表の概要・感想：

この度、第70回国立病院総合医学会に参加させていただきました。今回は口演で循環器科の症例を発表させていただきました。指導医の藤原仁先生、中村秀志先生、コメディカルスタッフの方々にお力添えいただき、無事に発表を終えることができました。心から感謝いたします。本学会で学んだことを活かし、当院での研修を更に深めたいと存じます。



□職 名：臨床研修医 □氏 名：辻 直樹

□演 題：「それぞれ異なる3つの状況で特異な形態のST上昇を認めた虚血性心疾患の3例の検討」

□発表の概要・感想：

沖縄の会場はとても多くの人々が集い、いたる所で議論に花が咲き、活気にあふれていました。私も発表後、他病院の先生方に質問をされたり、こうしたらどうかなど助言を頂いたり、とても勉強になりました。国病学会沖縄は気温だけでなく心もあつくなる数日でした。



□職 名：臨床研修医 □氏 名：木南 貴博

□演 題：「十二指腸の発赤と浮腫による腹痛を主訴に発見されたSLEの一例」

□発表の概要・感想：

今回第70回国立病院総合医学会で、「十二指腸の発赤と浮腫による腹痛を主訴に発見されたSLEの一例」を発表させていただきました。初めて学会に参加させていただき、多くの発表を聞き、勉強させていただきました。また、総合診療科中村浩士先生に指導していただき、何とか直前に発表原稿がまとまり、無事に発表することができて、中村先生ありがとうございました。今回、まったく知識のないSLEのループス腹膜炎というテーマをいただき、最初はよくわからないまま、参考文献をいろいろ読みあさり、今回の症例と文献の症例との類似点、相違点を調べることで、ループス腹膜炎の発症や臨床症状、検査所見、治療や膀胱炎が合併しやすいなど、色々勉強になりました。今回、指導医の中村先生や消化器内科の山中先生や藤堂先生、病理診断科の立山先生に指導していただきありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。



□職 名：生理検査主任 □氏 名：上田 信恵

□演 題：「脾臓に発生した髄外形質細胞腫の1例」

□発表の概要・感想：

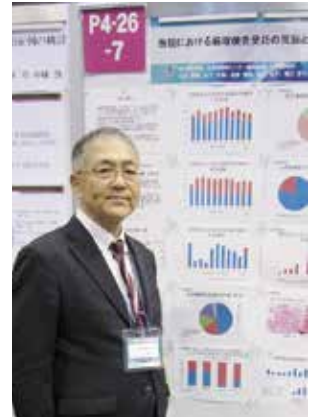
広島空港から2時間弱、飛行機の窓から見えるエメラルドグリーンの海に迎えられ、南国沖縄に到着しました。沖縄の気温は27度。広島とは10度の温度差があり、日差しはまさに夏。学会会場には、かりゆしを着たスタッフもおられ、南国ムードが醸し出されていました。私の演題発表は12日でしたが、空き時間はポスターや口演を聴講してまわり、他施設の方とも情報交換ができ、とても勉強になり刺激にもなりました。北海道に続き沖縄も個人的に初めてだったので公私ともにとても有意義な3日間を過ごすことができました。最後になりましたが、快く送り出してくれた検査科スタッフに感謝します。



ポスターセッション発表者

- 職 名：診療部長 □氏 名：立山 義朗
 □演 題：「当院における病理検査受託の実態とその意義」
 □発表の概要・感想：

最後までデータ整理に追われ、発表内容が何とか落ち着いたのは出発の前日。当然、発表練習なしでの参戦となりましたが、進行の迷惑だけはかけてはいけないと思っていたので、とにかく言いたいことだけに絞って、4分以内には何とか収めることができました。自分のポスターを貼っていた時に座長がいらして、「すごい興味深いですね、規模が割と小さい施設ならではの取り組みでいろいろされているのですね」と賛美？してくれて、「あれ～、ひょっとしたら賞が取れる？」とこの時、頭をよぎりましたが、そんなわけありませんでした。何年かぶりに沖縄に来させてもらえただけで満足です、本当に。



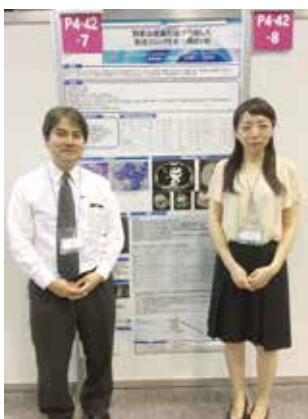
- 職 名：診療部長 □氏 名：藤原 仁
 □演 題：「当院における地域医療連携の取り組み」
 □発表の概要・感想：

12日(土)、午前中の地域連携・医療連携のポスターセッションで発表、座長をしました。発表の内容は当院においてこれまでの地域医療連携の取り組みを振りかえったものでした。セッションでの発表には、退院支援の取り組みや、在宅医療に向けて医療と介護の連携、また今春熊本・大分で発生した震災時人工呼吸器を装着した患者の在宅支援の連携に関するものもありタイムリーな話題もありました。

- 職 名：循環器科医師 □氏 名：中村 秀志
 □演 題：「閉塞性肥大型心筋症と大動脈二尖弁の合併例に対し
 左心カテーテル検査が血行動態の把握に有用であった1例」

□発表の概要・感想：

今回、当院で経験した症例について報告させていただきました。発表を通じて他施設の演者などとも討論することができ、大変有意義であったと思います。また、研修医2名の発表の援助も行い、彼らの指導を通じて自身の研鑽にもつながったと考えています。短い時間でしたが那覇市内を散策することができ、しばしの息抜きもできました。今後もこうした機会を積極的に活用し、自己研鑽に努めたいと考えています。



- 職 名：臨床研修医 □氏 名：金本 麻裕
 □演 題：「大腸癌からの転移性尿管腫瘍により腎後性腎不全をきたした1例検例」
 「静脈血栓塞栓症で発症した急性リンパ性白血病の1例」

□発表の概要・感想：

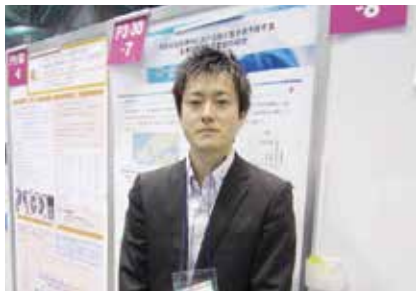
今回の学会では、泌尿器科と血液内科から合わせて2題のポスター発表をさせていただきました。泌尿器科では、日本での報告が自験例含め13例しかない大腸癌原発の転移性尿管腫瘍の1例を、血液内科では急性リンパ性白血病の非典型的な症状である血栓症を初発症状とした症例を発表いたしました。前回の学会の反省をもとに、今回は準備や練習に時間をかけ、取り組むことができました。ご協力くださった先生方、患者さま、ご家族の方々に感謝申し上げます。

□職 名：臨床研修医 □氏 名：長坂 啓司

□演 題：「治療に難渋した両側水腎症を伴う両側尿管結石の1例」

□発表の概要・感想：

2016年11月11日、12日に沖縄で行われた国立病院総合医学会にてポスター発表を行いましたので報告させていただきます。今回は「治療に難渋した両側水腎症を伴う両側尿管結石の症例」という演題で発表させていただきました。発表のご指導をいただいた当院泌尿器科福島先生、赤坂先生、浅野先生をはじめ、ご協力をいただいたすべての皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。



□職 名：総合診療科医師 □氏 名：長澤 佳郎

□演 題：「当院総合診療科における肺炎患者の長期入院、

予後不良となる要因の検討」

□発表の概要・感想：

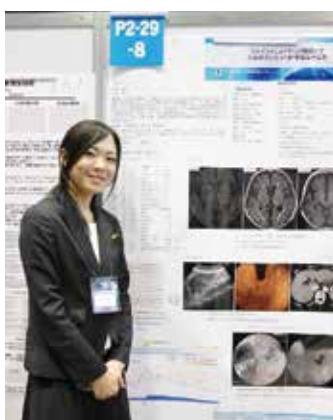
初めての国病学会への参加でしたが、発表された症例数も多く大変勉強になりました。また、医師のみならず多数のコメディカルスタッフも参加されており、普段の学会では知ることがない事も勉強でき充実した2日間でした。

□職 名：臨床研修医 □氏 名：鍵山 義斗

□演 題：「尿管瘤内に発生した尿管結石症の1例」

□発表の概要・感想：

今回「尿管瘤内に発生した尿管結石症の一例」と題し発表を行いました。学生の時に一度ポスター発表をした経験はありましたが、このような学会での発表は初めてのことで、思うように発表できなかったと感じています。質問内容も「どうして西医療センターを選んだのですか」と想定していた質問と異なるどころか、テーマとも全く関係のない一個人の私に対する質問であり、そもそも内容が正確に伝わらなかったのではと思います。しかしながら幸運にもポスター賞に選ばれまして（正確には「引き当てまして」）、大変うれしく思いますが、全く手ごたえがないです。因みに副賞は箸置きでした。来年は実力で選ばれるよう努力します。



□職 名：臨床研修医 □氏 名：安武 美紀子

□演 題：「クロイツフェルトヤコブ病疑いで当院紹介となった肝性脳症の症例」

□発表の概要・感想：第70回国立病院総合医学会のポスターセッションにおいて、神経内科から「クロイツフェルトヤコブ病疑いで当院紹介となった肝性脳症の症例」というテーマをいただき、発表させていただきました。私にとって初めての学会発表であり、準備・発表に際して、直接の指導医である渡邊先生・福原先生・元田先生をはじめ、多くの先生方・スタッフの方々に一からご指導いただき、無事発表を終えることができました。発表の際には、普段からお世話になっている先生方や病棟の看護師の方々に来て頂き、心強く発表することができました。また、他の国立病院で研修医をしている友人にも会うことができ、旧交を温めることができました。今後、学会発表をさせていただく機会を得た際には、今回の経験を活かしていきたいと思います。久しぶりの沖縄でしたが、天候にも恵まれ、楽しむことができました。今回の学会発表を行うにあたり、ご指導いただきました先生方・スタッフの皆さまにこの場をお借りして感謝申し上げます。

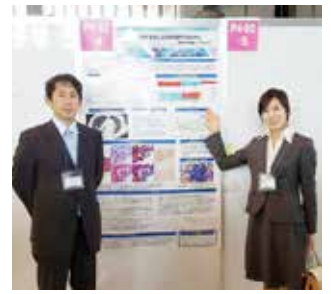
□発表の概要・感想：第70回国立病院総合医学会のポスターセッションにおいて、神経内科から「クロイツフェルトヤコブ病疑いで当院紹介となった肝性脳症の症例」というテーマをいただき、発表させていただきました。私にとって初めての学会発表であり、準備・発表に際して、直接の指導医である渡邊先生・福原先生・元田先生をはじめ、多くの先生方・スタッフの方々に一からご指導いただき、無事発表を終えることができました。発表の際には、普段からお世話になっている先生方や病棟の看護師の方々に来て頂き、心強く発表することができました。また、他の国立病院で研修医をしている友人にも会うことができ、旧交を温めることができました。今後、学会発表をさせていただく機会を得た際には、今回の経験を活かしていきたいと思います。久しぶりの沖縄でしたが、天候にも恵まれ、楽しむことができました。今回の学会発表を行うにあたり、ご指導いただきました先生方・スタッフの皆さまにこの場をお借りして感謝申し上げます。

□職 名：臨床研修医 □氏 名：藤上 知佳

□演 題：「腎生検の時期に苦慮した高齢急性腎不全患者は多発性骨髄腫であった」

□発表の概要・感想：

2016年11月11日、12日に沖縄で開催されました第70回国立病院総合医学会に参加させていただきました。今回私は初めての学会発表でしたので、とても緊張しましたが、倉恒先生を始め指導医の先生方のおかげで無事に発表を終えることができました。会場では他病院の研修医の発表もたくさん見学でき、このような機会はなかなかないので、とてもいい刺激になりました。また、会場が沖縄だったので沖縄料理や観光も楽しむことができました。



□職 名：臨床研修医 □氏 名：小田 祥大

□演 題：「18F-FDG-PET-CTで高集積を認めた膀胱癌と前立腺癌の一例」

□発表の概要・感想：

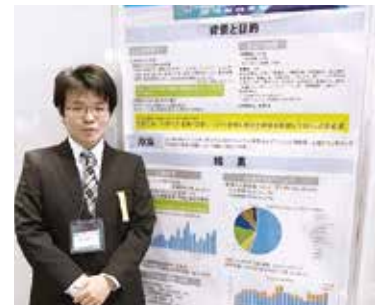
私は「18F-FDG-PET-CTで高集積を認めた膀胱癌と前立腺癌の一例」というテーマで発表させて頂きました。発表時間4分、質疑応答2分の合計6分間でしたが、準備には半年を要しました。「学会発表の準備がこんなにも大変だとは思わなかった」というのが正直な感想です。泌尿器科 浅野耕助先生と福島貴郁先生には、お忙しい中何度も何度も校閲していただきました。直前には、休日にも関わらず時間を割いていただきました。お陰様で、ベストポスター賞という名誉ある賞を頂くことが出来ました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

□職 名：心理療法士 □氏 名：舘野 一宏

□演 題：「当院における心理療法士の業務活動内容について」

□発表の概要・感想：

当院の心理療法士の業務内容についてまとめたものを発表してきました。現状ではがん(特に血液のがん)や認知症(疑い)といった疾患を抱える方へ関わるのですが、今後は、他の疾患を抱える患者さん方へも関われるよう、必要としている方に心の支援を提供できる体制を充実させていくことが課題と考えられます。

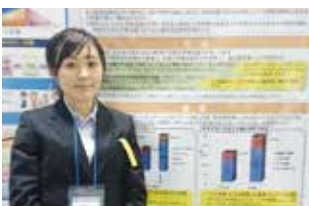


□職 名：心理療法士 □氏 名：藤原 美聡

□演 題：「当院における外来化学療法室利用患者への心理的支援体制について」

□発表の概要・感想：

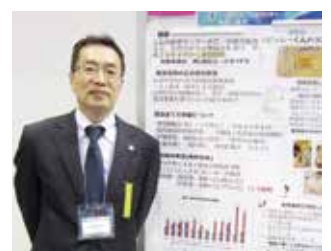
当院では昨年度より、外来化学療法室を利用する患者さんに質問票にご記入いただき、はじめて外来で化学療法を受ける場合等には心理療法士による心理カウンセリングを行っています。今回は質問票の結果や心理カウンセリングの件数等について報告しました。今後は今回の発表を活かして心理的支援体制の充実に向けて努めていきたいと思っております。ご協力くださった皆さま、ありがとうございました。



□職 名：管理課長 □氏 名：植田 誠司

□演 題：「広島西医療センターにおける病児・病後児保育室の現状報告」

□発表の概要・感想：平成28年11月11日、12日と国立病院総合医学会が開催され、私は「広島西医療センターにおける病児・病後児保育室の現状報告」と題して、ポスター発表をしました。当院の病児保育室は、過去の紙面でも何度か紹介しておりますが、開設当初の26年度は241人、27年度は428人の利用者数があり大幅に増加いたしました。



今回は開設当初の苦労や利用者からのアンケート結果、今後の課題について報告いたしました。座長からは、「現在、注目されているワークライフバランスの取り組みとして、働く看護師にはとても心強い存在ですね」とのコメントをいただきました。今後も色々な形で情報発信していきたいと思ひます。



□職 名：医療安全管理係長 □氏 名：山田 都

□演 題：「コンピューターナースコールの分析から見えるコール件数と

危険度・看護必要度の相関関係」

□発表の概要・感想：

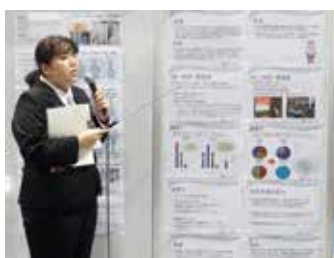
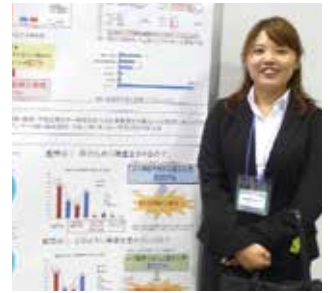
管理診療棟が開設したと同時に、東2・3病棟に導入したコンピューターナースコールは電子カルテと連動し、多量のデータが抽出できるため、昨年度から研究を進めてきました。今年度、沖縄で開催されることが分かっていたので「発表するぞ〜」と事前から意気込んでいました。今回は、「コンピューターナースコールの分析から見えるコール件数と危険度・看護必要度の相関関係」と題して発表し、座長賞を頂きました。高齢者が増える中、転倒転落対策に苦慮していると思ひます。その中で、転倒転落アセスメント評価の危険度が高く、看護必要度B項目の点数が高い患者さんに焦点を当て、少しでも適した対応策の基礎データとなる事を目的としました。今後も継続し、安全対策が取れるよう分析をしていきたいと思ひます。

□職 名：臨床検査技師 □氏 名：武知 そら

□演 題：「生理検査室の患者サービス向上を目指して〜アンケート調査報告〜」

□発表の概要・感想：

第70回国立病院総合医学会で、平成26年度から27年度にかけて取り組んできた患者サービス向上を目的としたアンケート調査報告についてのポスター発表をしてきました。私は、今回初めての学会発表で不安と緊張でいっぱいでしたが、原稿を何度も読み直して練習したおかげで無事に発表を終えることができました。貴重な体験をありがとうございました。そして、検査科のみなさんをはじめ、ご指導いただいた方々に感謝申し上げます。



□職 名：診療放射線技師 □氏 名：西 まどか

□演 題：「造影剤に関する理解向上・造影検査の改善への取り組み」

□発表の概要・感想：

「造影剤に関する理解向上・改善への取り組み」というテーマでポスター発表をさせていただきました。外来看護師と放射線技師を対象に造影剤についての勉強会を行い、前後の意識の変化を調査し比較するという内容です。学会の雰囲気を楽しむことができ、楽しかったです。また発表したいと思ひます。今回学んだことを今後活かしていきたいです。

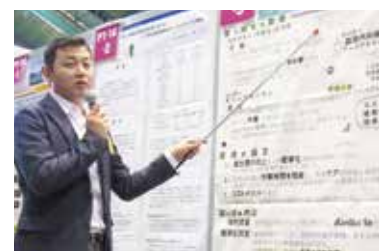
□職 名：感染管理師長 □氏 名：吉松 崇之

□演 題：「多職種協働および多角的なアプローチによる

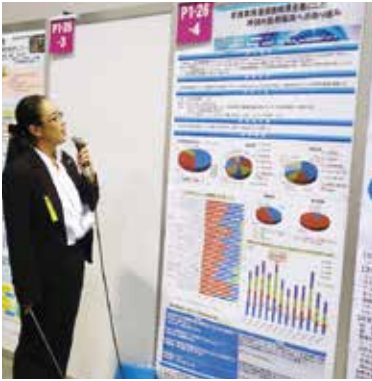
ディスプレイタブレットの全部署運用に向けた取り組みについて」

□発表の概要・感想：

私は、多職種協働で取り組むことの重要性・有用性に関する発表を行いました。一人では達成しにくいことでも、多職種が協働することにより、思いの外すんなりと、また、考えていた以上の成果を得ることができます。この度は、滞在期間が短かったため、観光はほとんどできませんでしたが、某有名ステーキ店には行く事が出来ました。ウチナーのソウルフードと言われている「No.1ステー



キソース」を試してみました。塩胡椒のほうが断然美味しいですね。勢い余って全体にかけてしまい、ひどく後悔しました。しかし、これも良い思い出です。



□職 名：西3看護師 □氏 名：郷原 美砂子

□演 題：「看護業務量調査結果を基にした時間外勤務縮減への取り組み」

□発表の概要・感想：

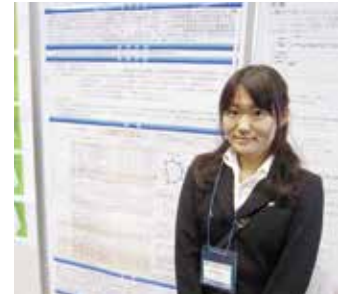
平成28年11月11日、12日の2日間、沖縄コンベンションセンターで行われた、第70回国立病院総合医学会に参加させていただきました。初日は【看護業務量調査結果を基にした 時間外勤務縮減への取り組み】というタイトルで、ポスターにて業務改善について発表させていただきました。フロアでたくさんの方々に発表を聞いていただき、少し緊張しましたが、とても貴重な体験となりました。今後も副看護師長グループで協力し、業務改善を行っていきたくと思います。

□職 名：2あゆみ看護師 □氏 名：久林 萌

□演 題：「筋ジストロフィー病棟における人工呼吸器装着患者の外出に
同行できる看護師の育成-技術チェックリスト自己評価分析-」

□発表の概要・感想：

初めての大きな会場での発表で、とても緊張しました。発表の順番が来るまで原稿を読む練習をして、本番では時間内に発表することができましたが、残念ながらベストポスター賞はとることができませんでした。他の発表の方のポスターは、写真やイラストを使ったり、文字をカラフルにしたりといった工夫が見られ、ポスターの見栄えも大切なのだと思います。また、全国から集まってきた同じ神経筋疾患病棟の発表も見ることができ、今後の看護に活かせると思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



□職 名：言語聴覚士 □氏 名：春元 康美

□演 題：「気管切開後も経口摂取の継続が可能であったデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者の一例」

□発表の概要・感想：

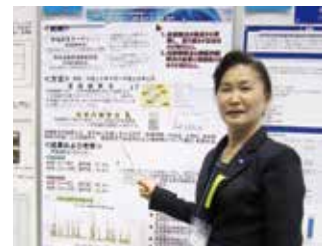
今回、「気管切開後も経口摂取の継続が可能であったデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者の一例」というテーマで発表させていただきました。発表には、他の病院で働く言語聴覚士の方も来られており、他院では同じ疾患の方にどのようなサポートをしているかなど、具体的な話を聞くことができました。また、発表後には意見交換をすることができ、今後の業務にも活かしていける有意義なものとなりました。今回の発表に当たり、ご協力を頂きました患者様、ご指導賜りました先生やスタッフの皆様に感謝申し上げます。

□職 名：西2看護師 □氏 名：中川 貴子

□演 題：「直接観察法の手指衛生オーディットに間接的観察法の手法を併用した
手指衛生遵守率の向上を図った取り組みについて」

□発表の概要・感想：

11/11～11/12の国病学会へ参加させて頂きました。今回の学会発表に参加をしませんかと勧められた時、「来年、定年になる私が、学会発表?」と、最初はびっくりしましたが嬉しかったです。私は、リンクナース委員として手指衛生のオーディットと、個人の手指消毒剤を併用した遵守率向上に取り組んできました。その委員としての取り組みが認められ、年齢に関係なく発表する事になりました。共同研



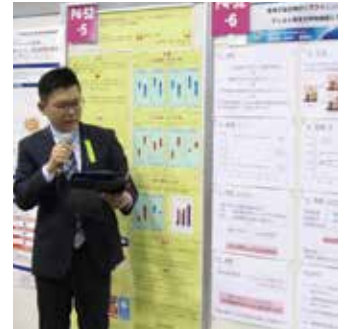
究者と共にポスター作製や、研究内容を相手に分かりやすく伝える発表方法など、多くのことを学びました。定年前の年に、このような機会を頂き、楽しく勉強ができたことは、良い思い出になりました。

□職 名：理学療法士 □氏 名：坂村 慶明

□演 題：「車椅子座位姿勢時のリクライニング機能およびティルト機能の使用が呼吸機能に与える影響」

□発表の概要・感想：

この度、第70回国立病院総合医学会でポスター発表をさせて頂きました。カテゴリーはリハビリテーションの中の筋ジストロフィーで、車椅子座位時にリクライニング機能を使用した場合とティルト機能を使用した場合で呼吸機能がどのように変化するかを研究発表させて頂きました。発表後には質問を頂き、意見交換ができるなど有意義な学会となりました。今後は学会で学んだことを業務に活かし、今まで以上に質の高いリハビリを目指します。今回の学会発表を行うに当たり、ご指導ご協力を賜りました先生方ならびに職員の皆様に感謝申し上げます。



□職 名：児童指導員 □氏 名：三浦 倫子

□演 題：「療養介護事業におけるALS利用者の状況とサービス」

□発表の概要・感想：

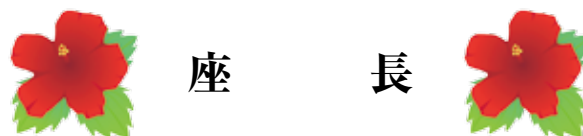
今回、初めて国立病院総合医学会で発表しました。初めての沖縄!!というわくわくした気持ちがありながらも、気を引き締めながら準備を進めました。発表内容は私自身が日頃の課題としている内容でしたが、とても短い時間内に自分の学びや主張をまとめるという作業は難しいところも多々ありました。しかし、発表準備から当日まで色々な方からのご指導を頂き、学びを深めることができました。また、今回の発表から、自分自身の今後の課題も見出せました。これからも日々の児童指導員業務に活かせる学びを深めていきたいです。

□職 名：保育士 □氏 名：中村 琴美

□演 題：「重症心身障害児（者）病棟における保育実施場所についての一考察」

□発表の概要・感想：

重症心身障害児（者）病棟における保育実施場所について考察したことを発表させて頂きました。私自身病院外で初めての発表であり、質問に上手く答えることができませんでしたが、良い経験となりました。また、ポスター発表で他院の療育指導室がどのような取り組みをしているのか知ることができました。今回の学びを今後にかかしていきたいです。



□職 名：企画課長 □氏 名：長沼 幸治

□演 題：「病院組織、経営・管理-1」

□発表の概要・感想：

第70回国立病院総合医学会に座長（口演：病院組織、経営・管1）として参加させて頂きました。なんとか座長を無事務めることができ、学会以外でも沖縄の味覚を堪能してきました。来年は、香川県で開催されます。皆様も是非参加してみたいかがでしょうか。

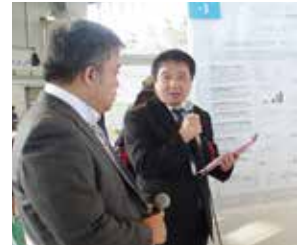




□職 名：経営企画室長 □氏 名：河根 修
 □演 題：「病院組織、経営・管理-2」
 □発表の概要・感想：

今回一般口演の座長を務めました。私が担当したセッション「病院組織、経営・管理」では、非常に厳しい経営状況である現在、「医療・サービスの質を落とすことなく、経費削減を図る」という事がどの発表にも共通した点であり、この考えのもと日々の業務に当たることの重要性をあらためて認識することが出来ました。早朝、守礼門までジョギングしたことが良い思い出になりました。

□職 名：副薬剤部長 □氏 名：幸吉 明
 □演 題：「薬剤・薬理・薬剤管理-5」
 □発表の概要・感想：



この度、沖縄で開催されました第70回国立病院総合医学会において、ポスターセッション「薬剤・薬理・薬剤管理-5」（8演題・約1時間）の座長を務めさせていただきました。学会2日目の朝一番という時間帯ではありませんでしたが、熱心な大会参加者が多数来られておりました。薬剤部の業務として、TDMにおける検討や医薬品の最大用量に関する調査、調剤業務上発生した疑問に対する研究、安全性の検討など、「くすり」のあるところに薬剤師ありを実感させる学会であったと思います。当院でも、多忙な業務の中ではありますが、このような学会において発表できるような検討を行っていかればと思います。最後に、このような貴重な経験をさせて頂く機会を頂き、関連の皆様にご挨拶申し上げます。



□職 名：副看護部長 □氏 名：中村 和美
 □演 題：「重症心身障害-2 行動障害のアプローチ」
 □発表の概要・感想：

11月11日、総合医学会にてポスター発表の座長を務めさせていただきました。担当は、重症心身障害、行動障害のアプローチについての8題でした。セッションを通して、研究者と参加者、そして私自身も多くの学びが得られるように、フロアーから活発に質問が出るようにと、内心ドキドキしながら祈るような気持ちで臨みました。発表4分、質疑2分という時間はとても短く、スムーズな進行とは言い難い内容でしたが、フロアーの協力もあり無事終了。本当に貴重な経験ができました。皆が、良い看護をしようと日々取り組んでいることに深い感銘を受けると共に、私たちが負けないように頑張ろうと、思いを新たにしました。



医学会の2日間は、冬の広島から、南国の沖縄へ、同じ国とは信じがたい気温の変化に戸惑いつつ、異国の空気と料理を味わうことから始まりました。機構病院、高度専門医療研究センター、ハンセン病療養所、すべての施設がその情報と知恵を演題という形で結集すること2816題。当院の発表はもちろんのこと、他の病院施設の取り組みや成果発表を聴くこともでき、当院との比較を通して新しい視点を発見することができました。来年の開催場所は香川で行われることが決定しており、新たな研究や取り組みを進めて行きたいと感じました。



国立病院総合医学会レポーター事務局 企画課 外来係 北本 純一
 管理課 庶務係 千田 智史
 企画課 契約係 神園 滯奈

◀次回開催ポスター



小麦粉摂取後に生じたアナフィラキシーショック、 犯人は予想外の…〇〇!

皮膚科 中村 吏江

近年温暖化に伴い、11月には営業しないはずのスズメバチが営業し人を刺したり、瀬戸内海にいないはずの南洋の魚が現れたりしています。これらのことはよく知られていますが、実は温暖化が、私達の台所事情まで脅かしていることをご存知でしょうか。

最近、たこ焼きやお好み焼き、ホットケーキなどいわゆる粉物を作って食べた後にアナフィラキシーショックという激しいアレルギー反応を起こす人が見られるようになり、温暖化による影響と言われています。

事例ですが、新婚のAさんはホットケーキを作って食べた後に蕁麻疹と息苦しさを病院に救急搬送され、大学生のBさんは自宅でたこ焼きを作って食べた後に気分不良と意識消失を起こし、緊急搬送になりました。2人とも病院で治療を受け、数時間で回復しました。小麦粉による食物アレルギー（アナフィラキシーショック）を疑われ精査になりました。しかしアレルギー検査では小麦は陰性、意外なことにコナヒョウヒダニが陽性だったのです。つまり2人にアナフィラキシーショックという激しいアレルギー反応を起こした犯人はホットケーキミックス粉やたこ焼き粉の主成分である小麦粉ではなく、それを餌に増殖したコナヒョウヒダニだったのです。

コナヒョウヒダニは、通常日本の屋内に普通にいる

ダニの1種で、カビや花粉、繊維や動物のふけなどを餌にします。このコナヒョウヒダニは25～28度、湿度が60～70%で最も増殖するため、温暖化による暖冬は彼らにとって追い風になります。それに加え、台所など餌となるものが充足される環境で、彼らは爆発的に増殖します。コナヒョウヒダニは体長0.2～0.5mmと非常に小さく、目視で認識することはかなり困難です。そして私達は知らず知らずのうちコナヒョウヒダニを大量に摂取してしまうのです。

誰もがダニ団子と化した物を摂取したくないはずですが、彼らはいつの間にか保存されている粉物に侵入し増殖しています。彼らを摂取しない方法として予防策（＝侵入や増殖を防ぐ）が一番であり、具体的な方法としては粉物と言われるミックス粉などは封を切ったら使い切る、もし残った場合は輪ゴムやクリップ、開封部分の折り曲げでは侵入を防げないため、冷蔵庫に保存することが挙げられます。（前述の2人も以前開封し、棚の中で保存していた物を使用したとのことでした。）

お菓子や料理を作ることはとても楽しいことですが、温暖化により見えない（見えにくい？）敵も近くに存在する今日この頃です。楽しく作り、楽しく食べるためにもほんの小さな気配りからはじめていただけると幸いです。





医療安全取り組み発表会の報告

～各部署に於ける医療安全の取り組み～

セーフティマネージメント部会研修企画グループ

今年で8回目となった広島西医療センターでの「安全取り組み発表会」が11月22日に行われました。日頃から各部署で取り組んでいる医療安全への取り組みについてまとめを行い、情報共有を行うことで医療事故のリスクを減らすという趣旨のものです。今回、院内24部署からポスター掲示があり、投票の結果みごと入賞した5部署からコメントを頂きました。

第1位



1位 西2病棟『がんばろう!みんなの力でてんと一ストップ!』

西2病棟 藤中副看護師長

西2病棟では、入院時に患者さんから得た情報を下に入院する病室を検討し、転倒防止看護計画を立案・実施しています。しかし、転倒転落が相次いだため、私たちのアセスメントに相違が生じていないか振り返ることにしました。患者さんの背景・転倒時の状況・転倒した理由などから分析した結果、予測されるリスクと発生理由に大きな相違はありませんでした。今後は、入院時のアセスメントを活かし、計画の評価・修正の充実を図り、医師や認知症看護認定看護師との情報共有を密に行うことで、今まで以上の適切なタイミングで適切な介入を行っていきたいと考えています。

第2位



2位 薬剤部『抗ガン剤の取り扱いについて検証し、改善に取り組みました』

薬剤部 幸吉副薬剤部長

薬剤部では、平成28年度の院内医療安全対策として、「抗がん剤の取り扱いについて」というテーマに取り組みました。具体的には、注射用抗がん剤の調製・払い出し等で使用する物品・機器等を「抗がん剤専用」として使用し、他の注射剤と明確に区別することで安全性をより向上させようとするものです。

今回の改善案は、若手の薬剤師からの提案であり、それを薬剤部共通の課題として認識することで実現しました。不安や疑問を感じた時に上司や先輩に相談できる風通しの良い職場環境を整えることも医療安全に繋がっていくのではないかと考えますので、今後も様々な意見に耳を傾けて医療安全対策の推進をしていきたいと思えます。

3位 放射線科『転倒転落防止への取り組み』

放射線科 原田副技師長

放射線科は転倒転落事故防止について取り組みました。事例について原因と対策を全員で話し合い、原因として放射線検査実施にあたり、患者入室、検査、退出まで一人の技師が対応することが多く、複数対応ができていなかったことが主な原因ではないかという意見でした。現実的にCT、MRIなど全てのモダリティに技師の複数配置は難しく、対応策として放射線検査中、転倒転落の危険を感じたら遠慮せず、同僚の技師、看護師、または患者家族の方々に援助をお願いすることにしました。

転倒転落事故は検査側の不注意、患者の予期せぬ行動など色々な因子があります。今回発表の機会を与えてもらったことを活かし、危険を感じたら、声かけ複数対応を心がけ転倒転落防止に努めていきます。

第3位



第4位



古濱副看護師長

4位 1若葉病棟『患者療養環境の整備』

1若葉病棟 米田看護師（発表者：古濱副看護師長）

今回、当病棟は患者さんの療養環境の整備としてベッド周辺、浴室に重点を当て取り組みました。普段は掃除することが出来ないベッドの裏側や浴室の溝、室内の隅の清掃を行い、患者さんが安心して入院生活を送るための環境作りができたと考えています。今回は4位入賞ということで、師長をはじめスタッフ一同嬉しく思っています。

今後も病棟一丸となり、患者さんにとって安全安楽な看護の提供をしていきます。

4位 2あゆみ病棟『看護師の服薬与薬業務における「インシデント発生要因」に関する検討』

2あゆみ病棟 沖副看護師長

2あゆみ病棟の昨年度の与薬に関するインシデント件数は36件で、発生要因は確認不足が33件と1位でしたが、インシデント発生要因が内服与薬業務のどの段階で発生したのかを分析し、予防対策に寄与することを目的とし取り組みを行いました。今回、マニュアルグループの協力もあり4位入賞することが出来ました。

これからも与薬のインシデント減少に向けて、作業工程図に沿った内服業務を実践していきたいと考えています。ありがとうございました。

第4位



第7回休日前立腺がん検診

前立腺がんの早期発見を目的に前立腺がん検診を日曜日を実施します。平日は仕事で忙しくて受診できない方、ぜひこの機会をご利用ください。

当日は浅野診療部長による講演会もございます。

- 日 時 平成29年3月5日(日) 9時～15時
- 場 所 広島西医療センター
- 対 象 40歳以上の男性
- 検 診 料 1,500円
- 内 容 問診・血液検査・下腹部超音波（前立腺）検査
- 申込方法 広島西医療センター健診センター 平日13時～17時
TEL0827-57-7183（内線2364）または0827-57-7151
- 講 演 会 演題：「最近の前立腺がん診療について」
講師：泌尿器科診療部長 浅野 耕助
時間：11時～12時
場所：広島西医療センター中央診療研修棟3階大講堂
* 予約不要・参加無料



地域医療連携病院医院のご紹介① 古吉眼科医院

【診療科目】眼科

【院長名】古吉 直彦、古吉 三紀

【住 所】〒739-0611 大竹市新町2丁目7-1

【電話番号】0827-52-4707

【診療表】

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	手術	○	○	○	○
14:00～18:00	○	手術	○	/	○	/

※木曜日、土曜日午後休診、日曜日、祝日は休診。



古吉眼科医院スタッフ

【診療内容の特徴など】

●開業の時期●

2001年3月に父の跡を継ぎ、旧診療所の向かいに新診療所をオープンしました。診療所は平屋であるため、バリアフリーとなっています。

●医院の特徴●

熊本大学眼科学教室の同期に当たる家内と共に診療しています。2診体制をとれているので、患者さんの話をできるだけ聞くことができ、二人の得意分野が異なるので、相談しながら診療することができています。

専門は緑内障ですが、高齢化率の高い大竹市では白内障手術にも重点を置いています。開業当初はすべて自院でやっていたのですが、今は各専門の先生方との連携に重点を置いています。広島西医療センターをはじめ、広島大学病院眼科、JA広島総合病院、広島市民病院形成外科・眼科、吉島病院等とも連携し、中電病院、広島県立病院では連携病院の認定を受けています。斜視弱視など小児眼科・神経眼科の分野では熊本大学時代に一緒に勉強し、のちに川崎医大視能矯正クリニックで働いていた視能訓練士を中心に月2回訓練日を設けています。広島県では視能訓練をできる病院がなく、遠くから患者さんも来ていただいています。

●特に取り組んでいることや今後について●

現在、眼瞼痙攣に対するボトックス注射、血管閉塞性疾患に対する抗VEGF薬の硝子体注射も行っています。今後も広島市内との「医療格差」が起きないように取り組みを行う予定です。

●先生の趣味●

学生時代は卓球選手でしたが、今は健康作りもかねて週1～2回程度硬式テニスを行っています。木曜日の午後医師会の先生方と晴海臨海公園でコーチレッスンを受けていますので、ご興味のある方は連絡ください。



眼科機器



古吉眼科医院外観

地域医療連携病院のご紹介② **本町 医 院**

【診療科目】 消化器内科、内科

【院長名】 渡辺 正朝

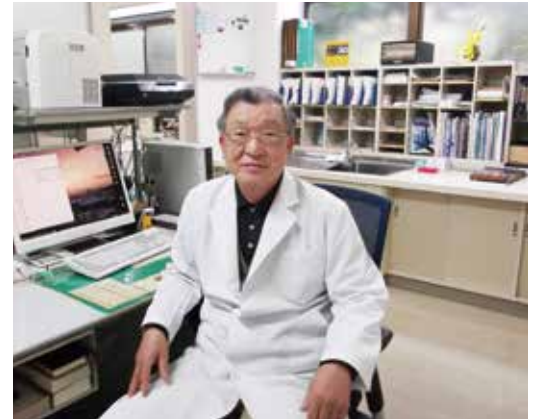
【住 所】 〒739-0613 大竹市本町2-15-17

【電話番号】 0827-52-4427

【診療表】

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
14:30～18:00	○	○	○	/	○	/

※木曜日、土曜日午後休診、日曜日、祝日は休診。



本町医院（渡辺院長）

【診療内容の特徴など】

●開業の時期●

平成元年6月に旧石井医院を引き継いで本町医院を開院しました。

地縁、血縁の密な地域で、縁のない私が依頼を受けて急遽開業を始めたものですから、当初は随分と戸惑うことがありました。そんな私を見かねた患者の方から「先生知ってる？」と話しかけられ、この地域の人間関係を教えてもらったことはとても助かりました。

●医院の特徴●

専門は消化器内科ですが、27年間いわゆる『かかりつけ医』として内科一般はもとより、患者の方から受けた相談や依頼に対してはほぼ対応してまいりました。

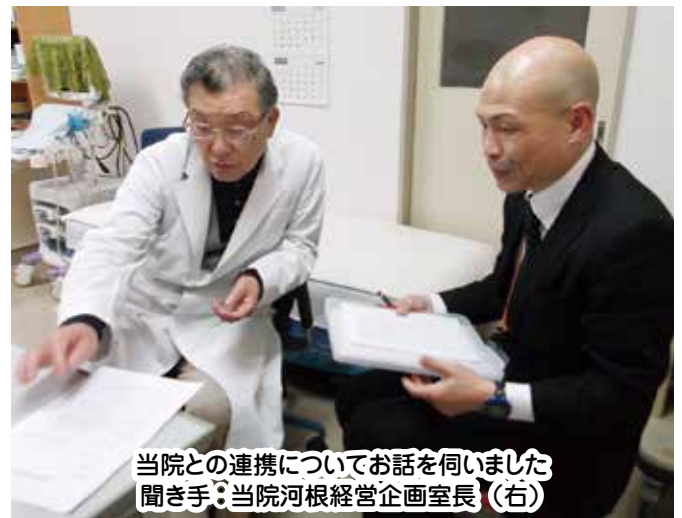
広島西医療センターの地域連携の機能は分かりやすく、対応が早いので、患者紹介時にとても役立っています。時には無理なお願いをすることもありますが、丁寧な対応なので、安心して患者の方に「受診して下さい。」と伝えることが出来ます。在宅患者の後方支援でも大変お世話になっています。

●先生の趣味●

趣味は旅行ですが長期に休むことがなかなか難しく、休日のドライブで気分転換をしています。ゴルフも時々ですが楽しんでいきます。



趣味についてジェスチャーを交えながら楽しく語られる渡辺院長（左）



当院との連携についてお話を伺いました
聞き手：当院河根経営企画室長（右）

 **クリスマス・コンサート**     

療育指導室長 齋藤 哲夫



恒例となった外来ホールでのクリスマス・コンサート、今年は12月22日の午後「げんきなこ」に出演していただき開催しました。「げんきなこ」は夫婦デュオで、ご主人のげんきさんはパーキンソン病で当院の患者さんですが、発症してからパソコンでの曲作りに目覚め、奥様のきなこさんが作詞・作曲そしてボーカルを担当しています。あのっしーくんのテーマソングもこの「げんきなこ」によるものです。当日は新曲「くつしたクリスマス」をはじめオリジナル曲とクリスマスソング、そしてもちろんにっしーくんも登場して「がんばれにっしーくん！」を美しい歌声で聞かせてもらいました。参加された患者さんも病院職員も楽しい、そして心温まるひと時を過ごせてもらえたのではないかと思います。

どうしても単調になりやすい病院生活、しかもクリスマスそして年の瀬を迎えるこの時期、短い時間でし

たが参加していただいたみなさんの笑顔がとても印象的でした。「げんきなこ」の楽しいトークと素敵な歌が、みなさんにとってささやかなクリスマス・プレゼントになってくれていれば幸いです。病院としてもこのような憩いの時間をこれからも企画していきたいと考えています。その時はぜひ足を止めて参加してください。お待ちしております。



**「ひろしま国際平和マラソン」に
メディカルランナーとして参加しました**

診療部長（循環器科）
藤原 仁



平成28年11月3日（祝）に開催された「ひろしま国際平和マラソン」にメディカルランナーとして参加しました。当日は天候にも恵まれ心地のいい一日となりました。救護する場面に遭遇することはありませんでした。

が、役に立つことがあればとの思いでランニングを楽しみました。この大会は昨今開催が盛んな他都市のマラソン大会とは異なり、距離も短く（5kmと10km）、気軽に誰でも参加できるので、秋の一日ランニングに興じてみるのもいいのではと思います。



秋行事 ～広島西医療センターにモンスタータウン出現！～

保育士 藤井衣恵



2016年11月16日水曜日。突如、広島西医療センターにモンスタータウンが出現し、モンスターたちが院内を彷徨い始めました。今年の秋行事はモンスターをメインに職員が仮装をして楽しい時間を提供すべく企画・運営をしました。



ハロウィンも終わったというのに、広島西医療センターの療育訓練室から中棟までの短い距離には5体ものモンスターが現れ、人々を「恐怖」と「笑い」？に巻き込みました。キョンシー・狼男・のっぺらぼう・トトロ・河童が院内中を闊歩。その他にも療育訓練室に潜んでいた鬼太郎、ドラキュラ、かぼちゃお化けの3体は奇妙なダンスでみんなを誘ってワイワイと騒がしくも楽しい時間です。今回、利用者による人気投票があったため、モンスターたちはいつも以上に張り切ってアピール合戦しました。怖がる利用者もいれば、笑顔で面白がる利用者もいて、それぞれに楽しんでくださったように感じました。そんな時間もアツという間に過ぎ、モンスターとモンスタータウンは白昼夢のごとく消えてしまいました。

翌日17日、今度は各病室にモンスターが出現しました。ぎこちない動きのダンスでベッドサイドに現れ、モンスターが利用者の顔を覗き込んできます。珍妙なポーズや決め台詞を披露され、笑っていいのか怖かった方がいいのか戸惑う利用者も。しかし、いつもとは違った雰囲気を利用者の笑顔をたくさん見ることができました。モンスターフェスティバルは終了しましたが、いつまたモンスターが出現するかもしれません。乞うご期待ください。



尚、今回のモンスター人気投票の結果は、2017年1月発行の「指導室たより」に掲載させていただきます。どのモンスターがみごとグランプリを獲得したのか結果をお楽しみに。



ゆるキャラグランプリ 2016

につしーくんへの応援
ありがとうございました！

最終獲得票数 2403 票

最終順位 601 位

昨年より 1434 票、

515 位アップしました！

今後ともにつしーくんを
よろしくお願いたします。



★NHK番組「にっぽん紀行-29歳で逝ったあなたへ
 ~東出昌大 伝説の棋士を巡る旅~」取材、撮影



故、村山 聖棋士

29歳と若くして逝った、村山聖（むらやまさとし）さんは、将棋棋士、九段（追贈）。森信雄七段門下。棋士番号は180。いわゆる「羽生世代」と呼ばれる棋士の一人。村山さんの伝説の棋士をめぐる旅

原病院との統合後、早いもので11年が経ちますがこの度の取材を受けて改めて歴史を感じた取材となりました。



思い出の将棋盤の説明を受ける東出さん

としてNHK番組の取材、撮影の依頼が有りました。番組は、俳優東出昌大さんが故村山聖さんの過去をおもいめぐる旅の内容で、『日本紀行』という番組です。村山聖さんは、幼少より重い腎臓病のネフローゼを患っており、小学校の時、旧国立療養所原病院の小児病棟に入院していた際に、将棋と出会い、プロの道に進んだといわれています。



患者さんと握手会

取材は、平成28年11月10日の夕方来院し1～2時間程度撮影されました。



将棋クラブ（患者さん）と将棋を指す東出さん（取材中）

当院では、病棟の状況、故村山聖さんが入院中にしていたであろう将棋の状況等、東出昌大さんが、取材する場面の撮影でした。

撮影現場は2あゆみ病棟で、東出昌大さんは、病棟を見てまわり、その後、プレイルームで患者さんと将棋を打っている様子を撮影していました。

撮影が、終わると患者さん及びスタッフたちと記念撮影をしたりサインをして頂いたりしました。



思い出の将棋盤にサインする東出さん

最終的に11月23日(水)祝日（勤労感謝の日）の本放送では、当院の取材部分は村山さんの過去を語るには不充分だったので、カットされて放送されませんでした。



病院スタッフと集合写真



平成28年度秋季消防訓練の実施と振り返りについて

庶務係 千田 智史



平成28年12月9日(金)、2あゆみ病棟を出火元と想定した消防避難訓練を実施しました。

訓練火災警報の発報から、消火器及び屋内散水栓等による初期消火訓練、ストレッチャーでの患者の搬送

避難訓練等を行いました。参加者は緊張を感じながら

もそれぞれ自分の役割を果たし、想定患者の避難誘導を完了することができました。

また、消防訓練実施後、参加者に対して気づきや

反省点を募集し、それらをまとめた上で、12月19日(月)に振り返りの会を開催しました。

避難誘導時の模擬患者役への声かけ不足やストレッチャーの移動方法等が課題としてあげられ、応援にかけつけるタイミングや最終の避難場所を夜間や雨



避難誘導の様子



呼吸器とともに患者搬送



消防署への通報

天の場合はどこにするのか等、訓練をいかに実際の火災発生時の避難へと近づけていくかについて意見が出されました。さらに、大竹消防の方より提案のあった新たな避難経路についての議論もなされ、大変有意義な会となりました。次回以降

の消防訓練の計画・実施において、振り返りの内容を活かしていきたいと考えています。

最後に、今回の消防訓練の実施にあたりご協力いただいた大竹市消防本部様、並びに職員、患者さん、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



本部活動



栄養士のつぶやき 18

レモンの力

新しい年も始まり、少し落ち着いた頃でしょうか。

さて、今が旬の広島県が生産量日本一の食べ物といえば、皆さんもよくご存じのレモンですね。

「早春のレモンに深くナイフ立つる をとめよ素晴らしき人生を得よ」(葛原妙子 橙黄より)これは母から娘への餞の歌ですが、ナイフを突き刺した時の清々しい芳香はもちろん、鮮烈な酸味と絵の具で塗ったかのような鮮やかな黄色さえ目に浮かんでくるレモンの存在感。まさにレモンの力を感じます。

見た目も手のひらサイズの紡錘形でかわいいレモンですが、レモンといえばビタミンC。レモン(全果)100g当たり100mgのビタミンCが含まれています。

ビタミンCには、免疫力を高める、コラーゲンを生成する、鉄の吸収を助ける、ストレス耐性を高めるなどといった働きがあります。ただ、ビタミンCは水に溶けやすい、熱に弱い、酸化しやすいという性質があるので、レモンを洗うときは手際よくさっと洗い、長期保存するとビタミンCはどんどん減っていくので、新鮮なうちに食べましょう。

また、水に溶けやすいビタミンCは体内に蓄えておけず、すぐに尿となって排出されます。だから、一度にたくさんの量を摂るのではなく、少しずつ分けて摂るのが効率的です。

広島県産のレモンは防腐剤を一切使用していないため皮も安心して食べられます。酢の物にレモンの皮を刻んで入れたり、お鍋のゆずポン代わりに果汁を絞ってレモンポン酢にしたり、ホットレモンも良いですね。上手にちょい足しして、寒い冬を乗り越えましょう。





患者図書室から



紹介したい！本がいっぱい！

図書紹介ファイル 2017年版完成しました



病気や健康に関する本を紹介 **ピンクのファイル**「健康情報のひとしずく」、小説やマンガ、絵本etc. 一般図書を紹介する **白いファイル**「さつき文庫リスト」。

それぞれの2017年版が完成しました。待合室、病棟ほか、病院内17か所に置いてあります。

「健康情報のひとしずく」は疾患ごとに項目を作り、図書室に置いてあるお薦めの本をご紹介します。

写真入りで分かやすくしています。

「さつき文庫」には約5,000冊の本があり、2017年版ファイルでは2016年12月現在の蔵書が記載されています。

ちなみに「さつき」は大竹市の花。「ひとしずく」は当図書室「健康情報の泉」の“泉”から“ひと雫”と名づけました。

「病気や健康に関する本」の貸出は“入院患者さんとご家族み”ですが、閲覧はどなたでもご自由に出来ます。通院患者さんには診察待ちの時間み、貸出しをさせていただきます。

「一般図書」さつき文庫は一般の方にも貸出しており、マンガなどは多くのご利用があります。※返却期限はどちらも1週間です
ぜひ、一度図書リストをご覧ください。



図書リスト



今年も図書室の暖炉に火が灯りました。
暖かい火の温もりは寒い日の何よりのごちそうに思えます。
暖炉の火を眺めながらの読書はとても癒されます。図書室で癒しのひとときをごゆっくりお過ごしください。

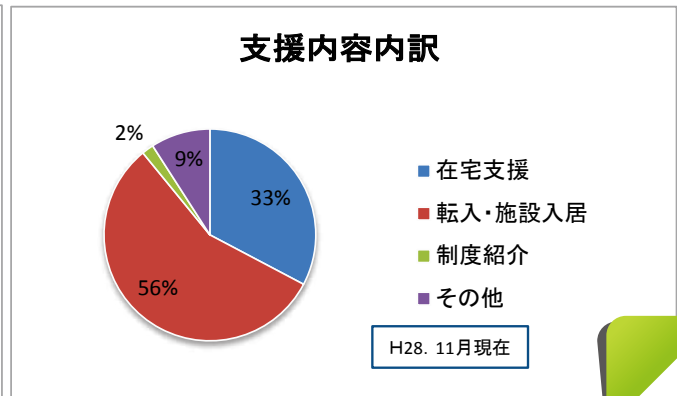
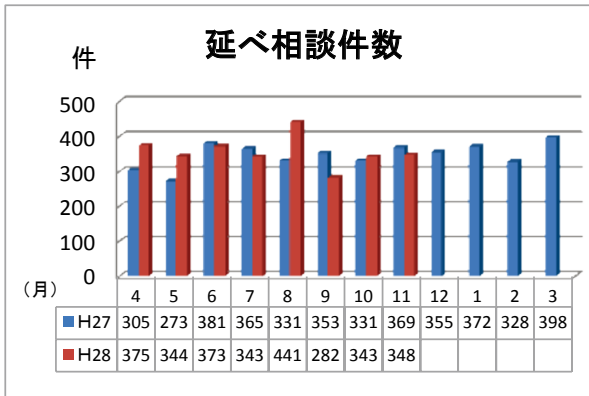
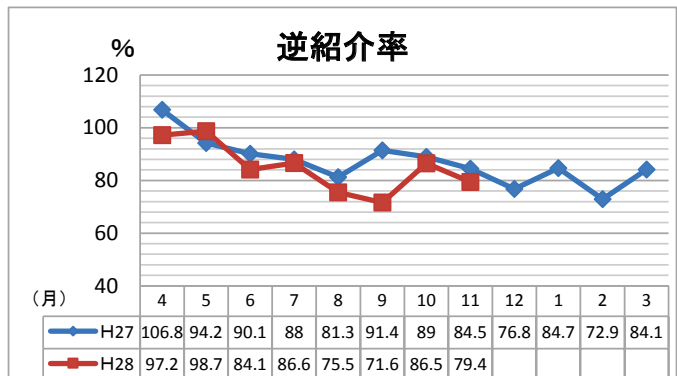
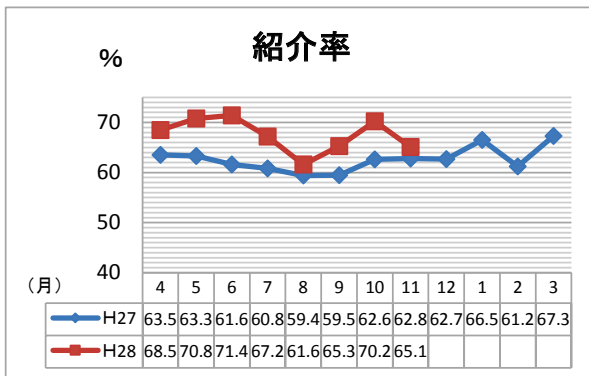
患者図書室内の暖炉

少し足をNova Savor ～紅葉に異変あり?～

例年通り、紅葉の時期にはできるだけ多く宮島を訪れているのですが、ここ2年ほど『絶景!』といえるような色づき方をしていないように思います。よって、どうしても一部を切り取ったような構図が増えてしまいます。紅葉は、ある程度気温が下がらないと色づかないため、ここ最近の温かさが邪魔をしているようです。また、来訪者が増加することで、根に負担がかかっている可能性もあるようです。(T.Y)



地域医療連携室実績報告



編集後記

皆様、新年明けましておめでとうございます。いつも広島西医療センター NewSを御愛読頂き感謝申し上げます。

広島西医療センター NewSは平成12年4月に「国立大竹病院かわらばん三倉」として創刊号を発行し、その後、平成18年1月から「広島西医療センターかわらばん三倉」と名称を改め、平成21年1月から現在の「広島西医療センター NewS」となりました。創刊号はわずか4ページで3ヶ月に1回の発行でしたが、現在の広島西医療センター NewSは2ヶ月に1回の発行で今回の1月号では24ページと掲載する内容も医療情報、コラムなど、これまで原稿を投稿して頂いた皆様のお陰により様々な情報を発信できるようになりました。

これからも、当院の情報だけでなく地域の情報も発信して行きたいと考えておりますのでどうぞ今年もよろしくお願い致します。

外来診療担当医表

広島西医療センター

広島西医療センターホームページでも紹介しています。ご利用ください。
<http://www.hiro-nishi-nh.jp/>

※受付時間 午前8時30分から午前11時まで

…前号からの変更箇所

平成29年1月4日現在

		月	火	水	木	金	備考
総合	1 診	中村 浩士	小池 隆夫	長澤 佳郎	生田 卓也	角野 萌/中村浩士	下記の専門領域以外の新患
内科	専門領域新患 (紹介患者)	藤堂祐子/山中秀彦 消化器	倉恒 正利 腎 臓	下村 壮司 血 液	坂本 直子 呼 吸 器	藤原 仁 循 環 器	月曜日 隔週
	1 診	呼吸器/血液	広大(呼吸器)	宗正昌三(血液)	坂本直子(呼吸器)	坂本直子(呼吸器)	広大(呼吸器)
	2 診	消化器/肝	藤堂祐子/山中秀彦(消化管)	福原 崇之(肝)	山中秀彦(消化管)	福原 崇之(肝)	藤堂祐子(消化管)
	3 診	呼吸器/内分泌代謝/血液	鼻岡理恵(消化器)	太田逸朗(内分泌代謝・血液)	太田逸朗(内分泌代謝・血液)	太田逸朗(内分泌代謝・血液)	新美寛正(血液)
	4 診	血 液	新美寛正(血液)	角野 萌(血液)	下村壮司(血液)	下村壮司(血液)	宗正昌三(血液)
	5 診	循 環 器	藤原仁(循環器)	中村秀志(循環器)	藤原仁(循環器)	中村秀志(循環器)	藤原仁(循環器)
	6 診	腎臓/血液	倉恒正利(腎臓)	倉恒正利(腎臓)	高蓋寿朗(特殊外来)	広大(血液)	高蓋寿朗(特殊外来)
神経内科	1 診	元田 敦子	渡邊千種(物忘れ)(第2・4・5)	渡邊 千種	牧野 恭子	檜垣 雅裕	予約制
	2 診	牧野恭子(パーキンソン病)	元田 敦子(第1・3)	元田 敦子	檜垣雅裕(頭痛)	渡邊千種(筋疾患)	予約制 PM
C A P D 外 来		倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	予約制 PM
インスリンポンプ外来		太田 逸朗	/	/	/	太田 逸朗	予約制 PM
禁 煙 外 来		/	担当医	/	/	/	PM2~4 予約制
小児科	一般外来	1 診	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎
		2 診	富岡 啓太	富岡 啓太	富岡 啓太	富岡 啓太	富岡 啓太
		予防接種	慢性外来	乳児健診	慢性外来	/	PM
	専門外来	小児脳ジストロフィー	伊藤 明子	伊藤明子・福田清貴	伊藤 明子	伊藤 明子	伊藤明子・福田清貴
重症心身障害	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦		
発達外来	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範		
小児心身症	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範		
補 装 具		/	/	/	/	木村(第2・4)	予約制
外科	初 診	石崎 康代	今岡 泰博	嶋谷 邦彦	太田 浩志	嶋谷/今岡/石崎/太田	金曜日交代制
	再 診	嶋谷 邦彦	太田 浩志	石崎 康代	今岡 泰博		
整形外科	初 診	岩崎 洋一	藤原 祐輔	永田 義彦	/	糸谷 友志	木曜日手術日
	再 診	糸谷友志/(永田義彦)	永田 義彦	岩崎 洋一	/	永田 義彦	
	再 診	藤原 祐輔	糸谷友志/(岩崎洋一)	糸谷友志/(藤原祐輔)	/	藤原祐輔/(岩崎洋一)	
泌尿器科	1 診	浅野耕助/福島貴郁	浅野 耕助	浅野 耕助	藤井 慎介	浅野 耕助	
	2 診	赤坂 保行	福島 貴郁	赤坂 保行	福島 貴郁	赤坂 保行	
産 婦 人 科		新甲 靖	新甲 靖	/	新甲 靖	/	予約制
皮 膚 科		中村 吏江	中村 吏江	/	中村 吏江	中村 吏江	水曜日手術日
眼 科		広大医師AM	/	/	/	/	第2・第4月曜日

●予約窓口●

- ・患者さんからの直接予約・予約変更は、平日13時～16時までに予約センターへご連絡下さい。
- ・医療機関からの予約 (CT・MRI 含む) は、地域医療連携室へご連絡下さい。
- ・予約窓口がわからない場合も、地域医療連携室にご相談下さい。

糖尿病教室を開催しております

参加ご希望の方は、あらかじめ予約をお願いいたします (当日予約可能です)。

問い合わせ先：栄養管理室(0827)57-8192

■病院代表電話番号 TEL (0827)57-7151

■予約センター(直通) TEL (0827)59-0251

■地域医療連携室

ダイレクトイン (0827)57-7183 (内線2140)

FAX (0827)57-7701